



## 【5】設計における工夫・留意点

「地域の未来を育む拠点」として地域住民が学校に気軽に集いつつ、教育活動と地域利用の両立を図るための、きめ細かな設計上の工夫・留意点を提示。

### ポイント① 地域住民の居場所機能の確保

地域交流スペースや図書室などを配置し、学校域と地域利用域を動線・ゾーニングで整理。地域コミュニティの核として、地域住民が気軽に集える「居場所」の確保及び教育活動と地域活動が共存・補完できるゾーニングが重要。

〈例〉愛知県瀬戸市「にじの丘学園」：図書館を地域交流の核とし、学びと交流を融合。

### ポイント② バリアフリー・ユニバーサルデザインへの配慮

高齢者や障がい者を含む多様な利用者に対応し、平常時だけでなく避難・防災時にも機能する環境を整備。

〈例〉神奈川県相模原市「鳥屋学園」：既存校舎を改修し、避難所機能と平常利用を両立。

### ポイント③ 地域利用を前提としたセキュリティ確保

セキュリティ確保には、出入口の分離や電子錠などのICTを活用したハード面の対策に加え、ルール整備や人的見守り等のソフト面の対応の組み合わせが有効。

〈例〉北海道安平町「早来学園」：ICTと人的見守りを組み合わせ、安全性と利便性を確保。

## ICTと人的見守りを組み合わせた安全設計

(北海道安平町)

- ・安平町の義務教育学校「早来学園」では、学校を地域に開きながら、安全性を確保するため、ICTによる管理と人的な見守りを組み合わせたセキュリティを導入。
- ・校舎は開放・共用・専用エリアにゾーニングされ、スマートロックにより、学校利用と地域利用を明確に区分。
- ・地域開放エリアに設けられた図書室には専任司書が常駐し、日常的な声かけや目配りを通じて、子どもと地域をつなぐ「人的な見守り」が機能している。
- ・ハードやICTだけに頼らず、地域の大人の存在を安全性の一部として組み込んだ運営により、開かれた学校と安心できる学習環境の両立を実現。



共用エリアに配置されたガラス張りの図書室



地域住民がWeb予約を行った時間帯には、該当教室のドアが自動的に解錠される設定

## 【6】運用における工夫・留意点

学校施設の完成を「ゴール」ではなく地域と学校の新たな協働の「スタート」と捉え、整備効果を持続させるための運用段階における工夫・留意点を提示。

### ポイント① 学校施設の完成を「スタート」として位置付ける

施設の完成を終点とせずにスタートとして捉え、完成後も関係者が継続的に連携できる体制を構築し、改善を継続。

〈例〉千葉県柏市「土小学校」：ワークショップを継続し、設計理念を踏まえた運営を実現。

### ポイント② 居場所機能の創出とにぎわいの形成

地域住民が日常的に集い、世代を超えて交流できる活動を展開し、学校を中心としたにぎわいを創出。

〈例〉北海道東川町「せんとびゅあⅠ・Ⅱ」：地域交流スペースやギャラリーを活用し、本格的な文化事業から参加しやすい地域イベントまで幅広く実施しにぎわいを形成。

### ポイント③ 学校と地域との情報共有・運用ルールの明確化

学校と地域が協働するために、役割分担・連絡体制・共有ルールを整理し、コミュニティ・スクールディレクター（CSD）等の調整役を明確にすることで信頼関係を維持。

〈例〉静岡県磐田市「ながふじ学府」：CSDが行事・施設利用の調整や地域イベントを支援。

### ポイント④ 施設予約・施設管理における工夫

ICTを活用し、外部利用の際の空き状況の可視化・オンライン予約・電子錠連動等により、学校教職員等の手を煩わせることなく利便性を向上。

〈例〉茨城県小美玉市：オンラインで空き確認・申請が可能。予約成立時に認証コードが自動発行され、利用者はコードで入退室できる仕組みを導入。

## 施設整備を「スタート」と捉えた運用の仕組み

(千葉県柏市)

- ・柏市では、築年数を経た土小学校の長寿命化改修にあたり、施設整備を終点とせず、学校を地域とともに再生していく出発点と位置付けて取組を推進。
- ・計画段階から、教育委員会、学校関係者、PTA、地域支援コーディネーター、社会福祉協議会など多様な主体が参画するワークショップを重ね、学校の課題や地域との関わり方、改修後の活用像を共有。
- ・改修後は、地域の「ふるさと協議会」を中心に、校舎内で多世代交流の場「サロンつちのこ」が継続的に活動を行い、学校と地域が協働して運営する体制を構築。



拠点として活用されている地域の歴史資料を展示する「ふるさと資料室」は、児童の郷土学習の場であると同時に、地域住民が集い語らう

## 調整役の配置による円滑な学校・地域協働

(静岡県磐田市)

- ・磐田市では、市内すべての小中学校にコミュニティ・スクールを導入し、学校と地域が協働して学校運営に関わる体制づくりを推進。
- ・その推進役として、学校と地域をつなぐ人材であるコミュニティ・スクールディレクター（CSD）等を配置し、連携体制を強化。
- ・ながふじ学府においても、CSDが学校職員・保護者・地域団体の間に立ち、地域人材の活用や学校と地域の連携活動に関する調整・コーディネート機能を担当。
- ・これにより、学校と地域の情報共有の窓口が整理され、関係者間の意思疎通が円滑化。